

とくじら 徳次郎 石研究会写真展

私たちが、住んでいるこの街角に、風土が幸せを感じさせるものがあります。かつて、多くの石屋根の葺が連綿していた時代があったと思わせます。心の豊かな時代だったのでしょうか。地産地消とも言える山から切りだした石を、里人たちが屋根瓦にして使ったのは、無名の匠の技です。又、蔵の庇や窓にも施した彫刻があり、遊び心のあるウェットに富んだ芸術作品があり、案外知られていません。そして今、俗に《石屋根100年》という言葉のごとく、時代の趨勢に押し流されて個体を失いつつ、最後の輝きを保っている様です。

徳次郎石研究会では、昨2025年秋プロジェクトを立ち上げ、現存する石屋根について、心ある蔵をお持ちの方々を訪れ、調査資料をまとめました。石屋根の本格的な調査は、おそらく最初で最後と使命感に燃えての事です。これら基に次の2回の写真展は、視点を変えた構成でお楽しみいただけたと思います。

最も偉大なのは、庶民の石工・大工・彫刻家であり、彼らの創造により地域文化が大きく発展していったことをご理解いただければ幸いです。当会にはプロの写真家がおられません。記録写真として、画質等ご容赦の程お願い申し上げます。なお、栃木県文化振興基金助成事業のご支援を頂いております。《次頁参照》

《第一部》よみがえれ！名もなき下野の石工達の芸術作品と石屋根

2026年9月14日（月）～9月17日（木） 栃木県総合文化センター 第二ギャラリー （無料）

問（主）：徳次郎石研究会 中川博夫 ☎ 08034606569

今日、いわば絶滅が危惧される、地域の石屋根の文化、昨年の徳次郎石研究会の調査結果を中心に、その石瓦の実物とともに写真展示も行います。無名の名工の彫刻作品も必見。＜石瓦の現物の展示も予定！＞

《第二部》今、よみがえる徳次郎石の文化

宇都宮市徳次郎町の西方の山々からは、江戸時代以来「徳次郎石」と呼ばれる、きめの細かい美しい石材が採石され、これを利用した独自の文化が花開いた。現在も徳次郎町を中心に、富屋地域及び市北部地域に受け継がれている。この企画展では「徳次郎石」が生み出した、他にない、優れた文化を展示、紹介する。

2027年2月8日（月）～2月12日（金）（11日（木）閉庁日） 宇都宮市役所1階ロビー （無料）

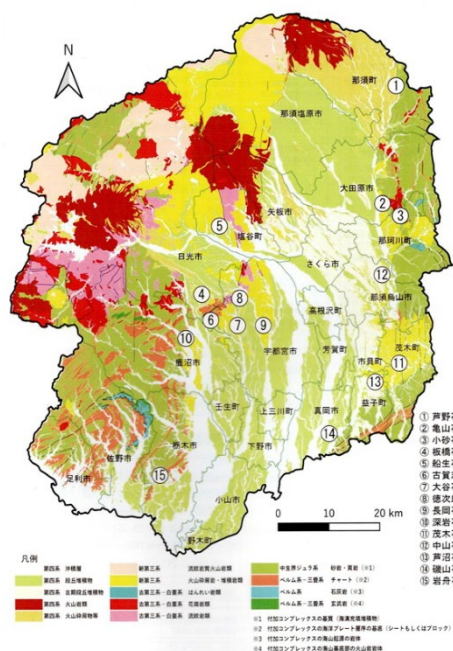
問（主）：徳次郎石研究会 池田貞夫 ☎ 07012426143

《第三部》皆様や、地区市民センター等のご要望により、一部展示を随時させていただきます！

研究の発端となった徳次郎石の石文化



2024 中村他 番号が県内の主な石材産地



徳次郎石研究会について、令和元年に設立。各地で掘られた、特に凝灰岩について、生活文化から利用し発展した石材について、Science & Culture を両輪として研究するのが目的。下野の里人たちは、その岩石の特徴見抜いて、特徴ある石文化を各地で築いている。メンバーは、科学者や郷土史家などで、『産（民）学可官連携的事業』として、幅広い知見の集約を目指す。『徳次郎石研究会活動成果報告書』を毎年出版し、宇都宮大学では、レポジトリとしてインターネット検索が可能である。これまでに宇都宮市の《みんなでまちづくり事業》から5回に渡り支援をいただき、今回は《栃木県文化振興基金助成事業》の対象となる。研究エリアも栃木県へと、江戸時代より民の創造した文化や地質の連携性を明らかにしたい。

江戸末期から、『農渡世』として、県内各地に見合う産業として発展して今日に至るまでの過程は、庶民の創造した石文化に、下野の民に感嘆と尊敬を感じる所だ。宇都宮の『大谷石の日本遺産』から、さらに大きなスケールを目指している。



👉 徳次郎石研究会では、毎年《徳次郎石研究会活動成果報告書》を刊行して図書館等で見られます



鹿沼市の石屋根



真岡市の石屋根



大田原市の石屋根



栃木県文化振興基金助成事業

下野の民による採石文化は、今日的には、『里山資本主義』、SDGs 的と見られる。県内のエリアへの研究の発展は、発見から保存活動と新たな観光資源が考えられる。今各地に眠る採石遺構は、負の遺産としてではなく、次の地方創成の時代に求められる、活用を皆様と共に創造したい。これらから、**栃木新ブランド**に確立となることを夢見るのです。